

朝光寺原遺跡(横浜市)

前方の小高い山の辺りに朝光寺原遺跡が展開していたようだ



ここは市が尾町公園



こな塩梅



別の公園入口から見ると、こんな高台になっている



公園の背後は更に高くなっている



公園の隅に説明板が立っていた



公園西方の台地上は、朝光寺原遺跡と呼ばれ、縄文・弥生・古墳・奈良時代以降の各種の遺構・遺物が多数発見された/弥生時代中期では、環濠集落と呼ばれる溝に囲まれたムラとその墓地が関東地方で初めて明らかとなり、竪穴住居跡59軒・方形周溝墓18基が発掘された/弥生時代後期の竪穴住居跡からまとまって出土した櫛目状の工具でつけられた文様をもつ土器は、「朝光寺原式」とした新しい型式が設定された/古墳時代では、5世紀後半から6世紀前半にかけて谷本川流域を支配した武人的性格のつよい首長の墓と考えられる3基の円墳が発掘された

朝光寺原遺跡

公園西方の台地上は、朝光寺原遺跡と呼ばれ、昭和42・43年に発掘調査が行われました。標高25～45m、200×400mの範囲から、縄文・弥生・古墳・奈良時代以降の各種の遺構・遺物が多数発見されました。

弥生時代中期では、環濠集落と呼ばれる溝に囲まれたムラとその墓地が関東地方で初めて明らかとなり、竪穴住居跡59軒・方形周溝墓18基が発掘されました。また弥生時代後期の竪穴住居跡からまとまって出土した櫛目状の工具でつけられた文様をもつ土器は、「朝光寺原式」とした新しい型式が設定されました。

古墳時代では、5世紀後半から6世紀前半にかけて谷本川流域を支配した武人的性格のつよい首長の墓と考えられる3基の円

墳が発掘されています。1号墳からは、短甲・冑・鉄剣・鉄刀・鉄鉾・鉄鏃・玉類、2・3号墳からは、馬具類・鉄刀・鉄鏃などが出土しましたが、それらは学術的に高い評価を受け、昭和63年に横浜市の文化財に指定されました。

平成5年3月

横浜市教育委員会



短甲と冑



朝光寺原式土器

さて、ここはすぐ近くに所在する朝光寺



朝光寺原遺跡の名の由来のようだ



朝光寺の由緒書き「上原賀解由左エ門朝光公が開基」と記されている

曹洞宗 白玉山朝光寺の由来

この寺は、今より約四百五十年前相模国遠藤村宝泉寺の末寺として白玉山土峯院と号し、多摩丘陵に連なる武蔵国市ヶ尾村の現在地に建立された。
御本尊は薬師瑠璃光如来で、後奈良天皇時代に御開山である碧岑東全和尚（天文十六年十一月十七日入滅）によって建立された。上原賀解由左エ門朝光公が開基された。上原公は天文十七年十一月に逝去し、法名を朝光寺殿法山道念大居士と諡号されたので、この法名に因んで朝光寺と改められた。墓碑は当時の五輪の塔として、墓地の一角に安置されている。
慶安二年八月（徳川家光時代に、寺領六石五斗の御朱印を賜った。当時は西向き）の由緒ある七堂伽藍であったが、明治三十二年不慮の火災によって悉く烏有に帰し、その後には仮本堂として維持されて来たが、昭和四十一年五月南向きに本堂を再建し現在に至る。

昭和五十三年十月吉日
当山三十三世壽徳量山代建立

参考ホームページ

https://naraakogare.blogspot.com/2019/01/blog-post_20.html

https://hamabra2.at.webry.info/201407/article_13.html

<http://aoba.ws/choukou.html>

<https://www.city.yokohama.lg.jp/aoba/shokai/bunkazai/ta/bunkazai005.html>

